

二〇三三年四月二八日

囀りに目覚めて励む厨事

満天

深山道瀑布のごとく懸かり藤

澄子

改札は駆け足屋根に燕の巢

たか子

二〇三三年四月二七日

子雀にパン屑はたくベンチかな

なつき

自転車の籠にスケボー風薫る

うつき

山畑を明るうしたる柿若葉

あひる

落椿赤白陣を分かちけり

うつき

二〇三三年四月二六日

踝を洗ひそめたる春の潮

素秀

二〇三三年四月二五日

街古りしシャッター通り燕来る

たか子

遺影へと供へる畑の初苺

明日香

二〇三三年四月二四日

鰯雲 水平線の 撓みけり

みきお

代わる代わる赤子抱き上ぐ藤の下

なつき

囀りに無為授かりし座禅堂

宏虎

野地蔵の首に白詰草の数珠

智恵子

己が影と纏るるごとく日向蝶

むべ

香りたつ路地を曲がれば薔薇屋敷

かえる

藻の花の流るる影に夕日さす

素秀

二〇三三年四月二三日

兵の夢の城址に青き踏む

素秀

花水木通りと名づく通学路

澄子

竹とんぼ放ちたる空風光る

千鶴

出庫する始発電車に朝つばめ

うつき

触角で交はす挨拶蟻のみち

みきお

明易し宵つ張りなる一人居に

はく子

二〇三三年四月二二日

トラクターに閉込められし春霞

素秀

緑さす森の奥よりトランペット

ぽんこ

鶴鴿の遊ぶ河原の風光る

満天

藤房の揺れにばいばいする子かな

なつき

首飾り編むげんげ田に日を浴びつ

なつき

毎日句会みのる選・二〇三三年四月三〇日